

竜王北中学校 学校関係者評価書

令和2年2月17日（月）

（竜王北中学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和2年1月31日（金）午後5時～6時20分

会場：竜王北中学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合廣光 米山善文 大久保典男 小尾裕子 中嶋政彦 金井久美子
（学校側）
小林大 青柳俊也

I 学校側から提案された内容

- ・令和元年度自己評価書
- ・令和元年度自己評価シート集計結果

II 協議された主な内容

- ・令和元年度自己評価書についての意見及び感想。
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善策。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・肯定的な回答（A「とてもそう思う」B「そう思う」の合計）が、50項目中41項目で85%以上となっている。学校運営は概ね良好な状態にあると言える。
- ・肯定的な回答率が低い（85%未満）項目は、「多忙化解消のための取組の成果」「危機管理マニュアルの理解」「多忙化解消のための業務改善への努力」「個に配慮した授業」「宿題や家庭学習に対する指導」「主体的・対話的で深い学びを意識した授業」「道徳の時間を中心に道徳教育を通して、生徒の豊かな心の育成」「地域人材や施設を活用した教育活動」「保護者や地域の要望等を聞く機会・情報収集」の9項目であった。また、「職員会議への積極的関わり」については、昨年度より10ポイント以上下降し、課題と考える。
- ・提示された改善策をより具体的なものとして実行し、PDCAサイクルを確立していきたい。

II 特徴

- ・本校は、3年間の県指定「道徳教育」をはじめ、「学力向上」や「言語活動」等、様々な指定研究を行ってきた。今年度、指定研究はなく、校内研究の研究主題を、「『自ら学ぶ力』を身につけた生徒の育成 ～『主体的・対話的で深い学び』を目指して～」として、「やまなしスタンダード」の中の振り返りについて主に研究を進めてきている。指定研究のときから活用している、北中ボードや付箋紙等は、継続して活用している。合唱発表会への取組や演劇を中心とした学園祭など、文化活動が盛んである。課題としては、不登校の割合が、学校規模から見て比較的多いことである。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

○不登校について

不登校には、十人十色の様々なケースがあり、置かれている状況もそれぞれ異なっている。いくつかの事例が挙げられ、不登校への対応について意見が交わされた。

- ・オンラインゲーム等に没頭し学校に行けなくなる場合、人とのやり取りがうまくできず学校に行けない場合、自己肯定感をもてず閉じこもる場合などがある。
(これらの事例が挙げられ、意見が交わされた。)
- ・親の指導に子どもが反発し、それに親がひるんでしまい、親は携帯を早い段階で与えてしまう。結果、不登校につながることもある。親は毅然とすべきである。
- ・家庭で保護者がどう考えどうしていきたいかを聞き、担任を中心として外部機関と相談しながら、方向性を見極めていくことが大切と考える。
- ・小学校から不登校の傾向があるのかそうでないのかで、だいぶ対応が違ってくるので、一人一人地道に関わるのが大事となる。
- ・地域に開かれた学校という意味からも、地域の中で、例えば傾聴というスキルだけでも身につければ、話を聞いてあげることができる。聞いて先生につなげることなら、地域の方もできると思うし、やってもよいという人もいるだろう。

○「楽しい授業」について

生徒が楽しく参加する授業について、意見が交わされた。

- ・北中の英語の授業で、発言するとA L Tから特別なチケットをもらえる。それが成績にもつながるので、英語が苦手でも意欲的に発言を心がけるよい取組だと思う。
- ・子どもたちが楽しいと感じる授業を企画するには、大変な労力を要するように思う。楽しい授業をつくることに時間がかかり、自分で自分の首を絞めているように思うので、その呪縛を解いてあげたい。子どもが少しでも達成感が得られればいい。
- ・子どもにとって一番大切なのは、分かるという体験だと思う。分かる授業の中に、楽しさを取り入れることができれば、素晴らしい。

○多忙化について

現在の多忙な学校現場の状況と、その対策について意見が交わされた。

- ・今の学校現場は、生徒や保護者への対応、アンケート等への対応、新しいことへの対応など様々で、それらが先生方を苦しめている。目に見えるものだけを数値的に減らそうとしても無理がある。教育界全体で根本的に考えるべきである。
- ・一般の人でも不登校の家庭に行って、子どもや親の話し相手になってあげることができる。その時間だけでも先生の時間を空けることができ、多忙化の解消と不登校の解消と地域に開かれた学校につながると思う。また、そうして得られた情報がケース会議の場で活用できるのではないかな。

○その他

今の学校教育で思うことが語られた。

- ・先生は生徒に遠慮することなく、しかることも誉めることも伝えてあげてほしい。
- ・生きるとはどういうことなのか、生きる上で大切なのは何か、そういうことを理解させてあげられるような授業があればいいと思う。何のために生きるかを理解して、そこから勉強で良いと思う。

※特記事項

- ・特になし

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長）氏名：石合 廣光 印

